

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第95号

## ななえ古写真物語

VOL. 95

### 七重と七飯

七飯村役場庁舎

明治35年～昭和12年

本町地区



nanae historical  
museum collection

この間、七重小学校の児童から「なぜ、昔のななえは「七重」なのに、今は「七飯」なんですか？」と、質問があった。私は「七重村と飯田村が合併したからなんだよ」と、そして続けざまに「君たちの小学校が「七重」の漢字を使うのは、合併前に開校した歴史のある学校だからなんだよ！」と付け加えた。

ななえが「七重」から「七飯」へ変わったのは、明治12年（1879年）のこと。読みは何故かそのままであることから、しばしば文字で表現する時に、混同されることが多い。頼まれて、文章を校正しなくてはならない時にも、この両者が誤って使われていることが多い。なので、私は展示のタイトルなどに使う時に、あえて「ななえ」とひらがな表記することがある。

しかし、利点もある。古写真に写されている文字に七飯が使われると明治12年以降であるという目安になるということである。そうになると、年代をさらに限定的にしたい時の参考になる。例えば、上の写真でいえば、門柱に「七飯村役場」と記されていることから、まず、明治12年より新しいことになり、さらに、七飯村役場が設置されたのが明治35年であることから、それ以降の写真というように。

では、いつ頃までなのか？

その答えは、過去に発行したピチャリ13号で述べている。昭和12年に、この役場が変わって建てられたモダンな庁舎として「旧七飯町役場庁舎」を紹介しているからだ。詳しくはそちらを参考にさせていただきたいが、それによって少なくとも、昭和12年より新しい写真ではないこととなる。

さて、この写真の役場庁舎について、詳しい資料があまり残されていない。しかし、古老の証言によると、「元七重勸業試験場の官舎四戸続きのものを亀田郡役所の官舎としていたが、郡役所が函館に移転したため、七飯村で払い下げを受け、役場庁舎にしたと記憶している。」とある。確かに、写真を見ると建物の前に七重官園時代から残されている石垣が見て取れるし、入口も3つあることがわかる。しかし、建物正面には多くの窓がみられることから、官舎の趣きはなく、学校のような雰囲気にも見えなくもない。やはり、まだこの庁舎については、もう少し詳しく調べる必要があるようだ。

「七重」と「七飯」が混在する明治期のななえから現在へ引き継がれたのは、変わらぬ読みと、石垣のようである。

## 24日

ジュニア探検クラブで、町民文化祭に参加し、せんべい焼きや工作、スタンプ染め、石臼・謄写版体験に挑戦しました。

せんべいは、小麦粉に水を加えてこね、タネを作り、せんべい焼き器を使って焼きました。炭火だったため、火加減に苦戦していたようですが、上手に焼けていました。また、七飯町の歴史を題材につくられた郷土カルタにも取り組み、おいしく昔の道具を体験しつつも、町の歴史にも触れる時間になったようです。



## 24・25日

この2日間は、第56回七飯町民文化祭の第2会場として、多くの方にご利用いただきました。

当館友の会と七飯町郷土史研究会の2団体が実行委員となり、昔の道具を使った体験や、絵本の読み聞かせ、七飯のリンゴ栽培の歴史、かるたとりなど、多くのコーナーを設置して、町内外の来館者への対応をして下さりました。この場を借りてお礼申し上げます。

今年初めてとなる、スタンプ染め、菜づくりも大盛況で、実行委員も来館者もともに楽しめた文化祭になったと感じました。

## ロビー観察コーナーが変わりました！

夏の間、クワガタたちを展示していたロビーの観察コーナーを一新し、植物の実や種を実体顕微鏡でみる事が出来るようにしました。肉眼ではわかりにくい小さな種にも毛が生えていたり、模様があたりと新たな発見があるかと思いますので、是非ご利用下さい。



## 12月の予定

1	火
2	水 夜の博物館
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水 天皇誕生日
24	木
25	金
26	土 ジュニア探検クラブ
27	日 ふぁみりーでいみゅーじあむ
28	月
29	火
30	水
31	木 年末年始休館日

12月31日～1月5日は休館です。

### ブドウジャム販売中です

リンゴに引き続き、当館育成のガルトネルブドウを原料としたジャムを販売中です。ご希望の方は、事務室までお越し下さい。



### 編集後記 ~tawagoto~

あっという間に、木々の葉が落ちていく。そんな季節になった。大量に発生した雪虫も、気が付けば何処へ消えたものやら、姿をあまり見なくなっている。午後の日差しは、事務室のデスクで仕事をしていると、やけに目に入り込むようになった。そんな毎日を淡々とやり過ごし、あっという間に白い世界に包まれるのかと思うと、一年が過ぎる早さが増しているように思う。まあ、歳のせいもあるだろうけど・・・。(やまだひさし)

~ピチャリ~  
Pichari

第95号

平成27年11月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp